

【御城 御万人に御目掛きやびら 知事ぬ行会】

(スタジオリード)

ちゅー うが しまくとうば みーし ついて
今日 拝なびらたい。島言葉さーに 新知らし 伝ーやびら。

むんだすいーうどうん のー ちゅく な
百浦添御殿ぬ 直し造いぬ なー 成てい

くんどう しむついち にじゅーさんにち うまんちゅ う み か はじ
今年 霜月ぬ 二十三日に 御万人んかい 御目掛きー始みゆ

る 事ぬ 極またくとう、たまぐすいくちじえ しゅびういうえーみぐ
る 事ぬ 極またくとう、玉 城知事ー、首尾御 祝巡いぬ

いせー つい
委細 告ぎやびたん。

=====VTR スタート=====

(八日ぬ 知らし)

にしんにじゅーににん うくな ちゃ むんだすいーうどうん のー ちゅく
二千二十二年から 行ーてい 来る 百浦添御殿ぬ 直し造

いんかい かがなてい

やまとうぬ うぎ くんどう しむついち にじゅーににち しゅびういうえー
やまとうぬ 御座ー、今年 霜月ぬ 二十二日に 首尾御 祝

うくな
行てい、

しむついち にじゅーさんにち うまんちゅ う み か はじ
霜月ぬ 二十三日に 御万人んかい 御目掛きー始みゆんで

い ふ んぢゃ
い 触りー 出 ちよーいびーん。

● たまぐすいくち じ ち まー
● 玉 城知事 聴ち廻い

よーや うぐすいく うしゅび な うほー っちゅ
「漸く 御城ぬ 御首尾 成てい、多くぬ 人ぬちやーぬ

われ がう ふく つい みー
笑一顔とう 誇らさんかいどう 連るがゆる。あんねーる 新
さる うぐすいく な はずい ぬず む み
御城 成ゆる 筈んでいる 望み 持ち召そーち
うたびみ ぶ うむ
御給召せー欲さんでい 思ゆん」

たまぐすいくちじえ はちにち いちえー むゆー むんだすいーうどうん うまんちゆ
玉 城知事一、八日に 行会 催ち、百浦添御殿 御万人んか
い う み か はじ くとう しゅびういうえーみぐ いせー
御目掛き一始みゆる 事とう、首尾御祝巡いぬ 委細
ついでい
告ぎやびたん。

きん なーふあしーんでー うちや いるかずい くとうば とう ふあか
県とう 那覇市等ぬ 打合一ち 色数ぬ 言葉 取り計らゆ
る ホームページ 居したる 外、世んかい 広みゆる たみ
い きん うちふか みーし まー むゆー かんげ
県ぬ 内外うと一てい 見知らし廻い 催する 考一や
んでい ？ゆ くとう
言る事 やいびーん。

たまぐすいくちじえ ゆすぐにむてい ふいる くぬ あ
玉 城知事一、余所国表かい 広みゆる 企みんかい 当た
てい、うちなー いめん くとう にんが
沖繩かい 参召せーる 事 念掛きてい
ちむふく なまむぬがたい ぶんくわ ちゆら
「肝誇いぬ 今物語とう 文化ぬ 清さ
あんねー ゆ とうゆ ぶ ちゆー い み
案内し良一すんでい 鳴響まし欲さぬ」んでい 強く 言召
せーびたん。

【語彙】

・に：対象を表す助詞の場合、通常は「んかい」を用いるが、文字数制約のため古風な「に」を用いた。時間を表す場合は「に」でOK。

・知事(ちじ)：諦めました。また、明治時代も「知事(ちじ)」は沖縄語会話中の常用語としてあったようなので、日本語からの外来語ということにしたいと思います。

・行会(?いちえー)：会う事。会見。会談。

・〇〇造(ぢゆく)い：〇〇工事。「みちぢゆくい：道路工事」。

・なー 成(な)ゆん：完了する。終わりになる。

・首尾御祝(しゅび?ういうえー)：落成祝。完工祝。「しゅびゆーうえー」でも可。

・巡(みぐ)い：1. 周囲。2. 回転。また、金銭がまわること、**事業を経営すること**、食物を消化すること。3. (接尾)～周。～めぐり。～まわり。

Cf. 「みぐいやんじ」事業の失敗。

「みぐいむん」働き者。活動家。

・?いせー：委細。詳しいこと。詳細。

・かかなゆん/かがないん：関係する。関与する。

・やまとう：1. 薩摩。2. 日本。普通「?うふやまとう」と言う。

薩摩藩の荘園「山戸」説、奈良の旧国名「大和」説があり、どちらも甲乙つけがたいので漢字表記は回避する。

・御座(うざ)：1. 政府。内閣。最高首脳部。2. お座敷。「座(ざー)」の敬語。

・触(ふ)りー：お上からの通知。おふれ。布告。

・取(と)い計(ふあか)らゆん：取り計らう。計画し、処理する。

・居(い)しゆん：1. 据え置く。2. 設ける。つける。「かた いしゆん：規則を設ける」。3. 座らせる。4. 地位につける。

・内外(?うちふか)：1. 内外。内と外。2. 家の内外。3. 近親と他人。

・念掛(にんが)きゆん/念掛(にんが)きーん：心がける。念頭に置く。志す。

・肝誇(ちむふく)い：歓喜。心の喜び。

・今物語(なまむぬがたい)：造語。「現在の物語」あるいは「新鮮な物語」の意で創作。「昔物語(んかしむぬがたい)」がいわゆる物語、ストーリー、伝説、御伽噺の意。「物語(むぬがたい)」は物を語ること、語らうこと、特に男女が愛について語ることを指す。

・清(ちゆ)らさん：美しい。清潔である。また、「盛大である」、「霊力が高い」というニュアンスもある。

いりばるこーこー しげーしん めーかによーぞー すり ざ
【西原高校うてい 紫外線 前予養生 揃一座】

(スタジオリード)

しげーしん しか ずいんぶん めーかによーぞー なら
紫外線ぬ 確つとう さる 存分とう 前予養生 習ーしみゆ
んでいち、

ちゆ ついらぢゆく しなちゆく こーこーしー たみ すり ざ
美ら面 作いぬ 品作 やーぬ、高校生ぬ 為んかい 揃一座
むゆー
催さびたん。

=====VTR スタート=====

はちにち し
(八日ぬ 知らし)

く すり ざ しなちゆく
此ぬ 揃一座ー、品作 やーぬ

しげーしん からた き が めーかによーぞー し くとう
紫外線ぬ 体 かいぬ 怪我とう 前予養生 知ゆる 事さーに

まふあだ む な てーしち くとう くくる わか
真肌ぬ 持ち為しぬ 大切 やんでいる 事 心から 解ゆる

たみ むゆー むん
為 催 ちやる 物 やいびーん。

?う ば す いりばるこーこー すり ざ やしち ふか
其ぬ 場所ぬ 西原高校うていぬ 揃一座んかえー、屋敷ぬ 外

ながどうー あっ
うてい 長通し 歩ちよーる

うんどーぶー しーとう ひやくぐじゅーにん あた
運動部ぬ 生徒ぬちゃー 百五十人 辺いぬ ぬばがいびたん。

しんしー ち まー
●先生 聴き廻い

「^{ふいーや どう}日焼き止みっし ^{しげーしん}紫外線から ^{はだ まむ}肌守ゆる ^{くとう}事さーに

^{うんどー}運動からぬ ^{くんち とぅ けー}根気取返しんかい ^{てーぢから うほー}堪力多く ^{ついか ゆー}使い良
一さびーん」

^{しんしー}先生が ^{しげーしん}紫外線からぬ ^{はだ うい}肌ぬ老ーとぅ ^{どーやふあ}胴柔らく ^な成ゆる

^{くとう}事んでいる ^{きが ついて}怪我伝ーていから、

^{しーとぅ}生徒ぬちやーや ^あ当たてい ^{ふいーや どう}日焼き止み ^{ついか}使やがちー

^{しか}確つとぅ さる ^ぬ塗ゆる ^{ていだん}手段とぅ ^ちかじ効ちゆる ^{む な}持ち為し

^{なら}習やびたん。

●^{しーとぅ}生徒 ^{ち まー}聴き廻い

「^なばん鳴い ^{ぬ すい}塗い過ぢーねー ^あむっちやいくわったい ^{やっ}し一易
く ^な成いるくとう、

^{ついぢ}次から ^{しか}確いとぅ (良ー) ^{しゃく ぬ}尺塗てい ^{い ぶ}行ち欲ささ」

●^{しーとぅ}生徒 ^{ち まー}聴き廻い

「^ぬ塗いすい ^ああんまさぬていやい ^あ在いびたすいが、

^{はだ}肌ぬ ^{てーしつゐ}大切んでいる ^{くとう}事 ^し知らったくとう ^{てーしつゐ}大切に ^いっし行

ち^ぶ欲ささ」

揃^{すり}一座^ぎ 催^{むゆー}ちやる 商^{あちね}一組^{ぐめ}一、確^{しか}つとう さる 存^{ずいんぶん}分^{ぶん}さーに
夏^{なついま}負^まき さん 如^{ぐーとうー}

な^ゆ一ふいん 良^{はたら}たさる 働^{ついで}ちんかい 連^くるがらち 呉^く召^{いみ}そーり
んでい そーいびーん。

=====^{VTR}おわり=====

此^くりからどう まふつくわ、日^{ふいーや}焼^やきんかえー 心^く得^{くり}てい 歩^あち
呉^く召^{いみ}せーびりよーたい。

島^{しまくとうば}言^ご葉^はさーに 新^{みーし}知^しらし 伝^{ついで}ーやびたん。またん 拝^{うが}なびらた
い。✂

【語彙】

- ・前予養生(めーかによーぞー)：病気の予防。前もって体に注意し養生すること。
- ・揃(すり)一座(ぎ)：学問所。自習塾。学校以外の民家で、若者たちが勉強所とした場所。本来学校以外の勉強場所のことだが、「西原高校」は建物名であってカリキュラムではないと考える。
- ・存分(ずいんぶん)：知恵。分別。才能。漢字は「人文」ではない。「存分」説が有力。
- ・「ならーすん」と「ならーしみゆん」：どちらも「学ばさせる、教える」だが、「ならーすん」は、「(子供などが自発的には)学びたくないと思っているものを教える、教育する、しつけする」、「ならーしみゆん」は「知りたいことを教える、自由に学ばせる」のニュアンスがある。
- ・「動詞終止形+でいち やん」構文：「～するつもりだ」の意。
- ・作(ちゆく)ゆん/作(ちゆく)ゆん：1. 制作する。製造する。2. 農業をする。3. 化粧する。

おめかしする。(顔を)作る。

- ・体(からだ)：からだ。KARATA と清音である。通常「胴(どうー)」を身体の意で使うが、こちらは同音異義語「自分」の意での用例も多いため避けた。
- ・怪我(きが)：1. けが。負傷。2. **被害。損害**。ここでは2の意味で用いる。
- ・真肌(まふあだ)：きれいな肌。理想的な肌。「真皮」ではない。
- ・持(む)ち為(な)し：1. 持ち方。手入れ。2. 世話。
- ・場所(ばす)：1. 折、場合、際、時、機会。2. 場所。3. 理由、訳。
- ・運動部：「部」を外来語として輸入し長音化させる方が自然と判断。
- ・ぬばがゆん/ぬばがいん：ちょっと顔を出す。ちょっと立ち寄る。ちょっと覗く。
- ・〇〇止(どう)み：「血止草(ちーどうみぐさ)」「口止(くちどうみ)」
- ・根気(くんち) 取(と)り返(け)すん：元気を取り戻す。回復する。
- ・胴柔(どうーやふあ)らさん：体が弱い。病弱である。
- ・当(?あ)たゆん/当(?あ)たいん：多義語だが、ここでは「事にあたる」の意。「?あていどう すゆる：実際に体験してこそはじめてわかる」。
- ・かじ 効(ち)ちゅん：効く。利き目がある。効果がある。「かじ」は意味不明語、単独では使用しない。
- ・確(しか)いとう：ちゃんと。しっかりと。「確(しか)っとう」よりややぞんざいな言い方。
- ・夏負(なついま)き：夏負け。暑気あたり。暑い夏に体がやられること。「ふみちまき」とも言う。
- ・まふつくわ：暑い真昼。照りつける夏の昼間。漢字は「真膨(まふく)ら」か？
⇒「夏(なつ)いぬ ばんじ：夏の真っ盛り」でも可。